

2016.9.10 00:52

**【明美ちゃん基金】医療団、32人の治療を終了 「手術後の管理強化を」「レベル、確実に向上」**

【ヤンゴン=道丸摩耶】国内外の心臓病の子供たちを救う「明美ちゃん基金」（産経新聞社提唱）の医療団11人が9日、ミャンマーの国立ヤンキン子供病院で心臓病の子供たちの治療を終了した。

今回は外科と内科そろっての活動となり、外科8人、内科24人の計32人の患者を治療した。

外科チームを率いた市川肇医師（国立循環器病研究センター）は「初めて来た昨年と比べ重症者を多く手術した。日本ならもっと早く病気を見つけているが、こちらはそれができず重症化する」と指摘。「手術後の管理を強化しないといけない」と課題を語った。

内科チームの杉山央医師（東京女子医大病院）は「現地の医師が若手に手技を教える場面もみられ、レベルは1年で確実に向上した」と評した。問題が起きたときの処理に課題はあるが「経験を重ねれば対応できるようになる」と語った。



明美ちゃん基金。手術を受けて元気になった患者と、国立循環器病研究センター病院の市川肇医師（左から2人目）ら日本人医師団＝9日午前9時7分、ミャンマー・ヤンゴン（安元雄大撮影）